

運転中の携帯使用について

間違った社員管理の 付け としての事態 全ての所員のみなさん

JR東海会社のホームページで「東海道新幹線運転士が操縦中に私用の携帯電話を扱った事象について」とした、会社としての見解を出しました。また、JR東海の発表を受けたであろうマスコミも、一斉に報道しました。

私たちは、職場で25日から突然始まった、個人の持ち物である携帯電話の電源確認に対して「理由も説明もナシで確認」「強引な何でもありに抗議する」と非常識な感覚に抗議し皆さんにも「どうしてですか？」と聞きまじょうと訴えました。

所長掲示を掲出し、さらに聞き取り調査も行いましたが、管理者は「噂」を気にしていました。なぜ「噂」が気になったのでしょうか。

ホームページによれば、事実が明らかになったのは23日で、当事者の聞き取りは23日から24日に行い、その後30日までに全乗務員の聞き取りを行い、「結果」を12月1日に国交省などへ報告したことになります。

これらの時間的経過から「噂」を気にしていた理由がハッキリします。「社内調査」を理由にして11月23日から12月1日までの間、国交省などには報告をしていなかったのです。そのことが「噂」によって国交省やマスコミに知られることを心配していたとしか言いようがありません。最悪の場合は「隠していた」となり、リニア中央新幹線構想にも大きく傷を付けることになりかねないことを承知していたのです。

会社は「今後の対応」で、「・厳正な処分を行う・調査の過程で個人指導を行った・教育を徹底し、乗務点呼時に私用の携帯電話の電源が切れていることを随時、確認する」としています。

全ての所員のみなさん

特に、アリバイ的で国交省向けとしか思えない「随時、確認」はおかしいと思いませんか。確かに乗務中に携帯電話を使わせろとは絶対になりま

せんが、「随時、確認」は乗務員全員の。連帯責任としての対応であり、会社としての責任を明らかにした対応ではありません。

全ての所員のみなさん

会社はこれまで、社員管理として「命令と服従」「規律と忠誠心」を声高にし、全く仕事の実態、実感とかけ離れた「基本動作」を次から次へと打ち出し「これをシッカリ守れば」事故は起きない。安全が保たれる、と言い続けています。自己啓発でそれは実現できると言い、そして、訓練は試験の連続です。特に乗務員の作業実態、実感とかけ離れた「基本動作」を作って来たにすぎません。

本来、基本動作は最初に、機器などの設計思想や特徴に合わせて作られますが、それでは不完全なために、その後の事故やミスや誤動作などを繰り返すことでその機器や作業にピッタリの基本動作が確立されてきました。残念ながら、その基本動作を社員管理の道具として悪利用して「基本動作を守る社員づくり」をしてきたのです。

例えば「出勤遅延防止」もそうです。あたかも所が推奨する三つを守れば出勤遅延は「0」になると言っていますが、失敗は起きてしまいます。社員は「基本動作」を守ろうと必死の思いで努力しています。

これは、間違った社員管理の積み重ねが社員のプレッシャーとなっているからです。このプレッシャーを何とか取り除こうと焦る気持ちのなかにすき間が出来てしまうのです。これらが、会社が言う「不祥事」として表れていると言えます。

反省すべきは会社の、間違った社員管理の在り方です。事故やミスの責任のかなりの部分は会社にあるのです。この事態は、これまでの間違った社員管理の付け、なのです。そして、今回の事態と「今後の対応」はその責任を覆い隠すものであり、社員に「随時、確認」を押し付けることで社員の責任とし、しかも連帯で責任を取らせようというのです。

全ての所員のみなさん

連帯責任としての「随時、確認」は必要ないと言いましょ